

I 実践

1 研究主題

「一人一人を大切にし、互いに認め合い、望ましい人間関係づくりに努める生徒の育成」

2 主題設定の理由

本校では「一人一人の生徒に人間の尊さについての自覚をもたせ、互いに大切にしよう生徒を育てる」、「自ら判断する力を養い、物事を正しく捉え、正しい判断のもとに行動できる生徒を育てる」、「互いの人権を尊重し合い、望ましい人間関係づくりに努める生徒を育てる。」の3点を目標として人権教育を推進している。

本校の生徒は同一小学校からの進学であり、お互いのことをよく知っている。そのため、生徒の仲は全体的に見ると良い方だと言える。しかし、そのような環境の中でも、友人関係への不安を背景として登校が難しくなってしまう生徒が存在することは大きな課題である。

本校では平成24年9月に生徒間の心ない言動に問題意識をもった当時の1年生が中心となり、「いじめ撲滅委員会」という組織が結成された。(以下、通称のIBIと記す)IBIはまさに、本校の研究主題である「一人一人を大切にし、互いに認め合う」学校の雰囲気づくりを目指して活動しており、本校の人権教育活動の基盤である。学校の雰囲気を良くするための取り組みは本校の伝統として今もなお受け継がれており、当時の生徒が卒業した現在は各学級の役員がIBI委員となり年間を通して活動が続けている。このIBIの活動を始めた各委員会や学校行事における教育活動を通して、「一人一人を大切にし、互いに認め合う人間性豊かな生徒」を育成することは、前述した課題の解決にも繋がると考え、この主題を設定した。

3 研究の内容

- (1) IBI・JRC委員会を含む全ての委員会活動や地域行事への参加等を通して、ボランティアの精神や他者を思いやる心を育てる。
- (2) 道徳科を中心とした道徳教育を通して人権意識を高める。
- (3) 生徒の主体的な活動を通して、人間関係を深める。
- (4) 外部講師による特別授業を通じて、人権に関する情報や知識を得る。

4 実践内容

(1) 委員会活動

ア IBI委員による「あいさつ運動」「ハイタッチデー」

毎週月曜日に正門の前に立ち、登校した生徒一人一人にむけて、あいさつやハイタッチをすることで、さわやかな学校の雰囲気づくりと生徒一人一人の自己存在感が高まる活動を行っている。

イ IBIでの各学級の様子を話し合うIBI定例会

各クラスの様子を報告することで、学級の姿に客観的な目を向け、問題の有無やその原因と改善点を話し合う場を設けている。今年度はさらに、火曜日は「SNSトラブルをなくすにはどうすればよいか」、木曜日は「学級に入りづらさを感じている仲間にごできること」の2つのテーマについて毎週、会議を開き、学級ごとに話し合いを行った。1つのテーマについて学年の代表が話し合うことで集中して議論することができ、先輩からの意見を聞くなど、改善策を膨らませることができた。解決に向けた取組を具体化して学級へ還元することで、安心して生活できる雰囲気づくりを行っている。

ウ JRC委員会による募金活動

災害義援金や赤い羽根募金への呼びかけを行うことで、学校の外に向けた思いやりの輪を広げる活動を行っている。

エ 体育祭での敬老種目(坂中からの贈り物)の実施

体育祭の中で地域のお年寄りを集い、ボランティアの生徒が肩もみや会話をする活動

オ 地域で行われる敬老会・福祉のつどいの運営ボランティア

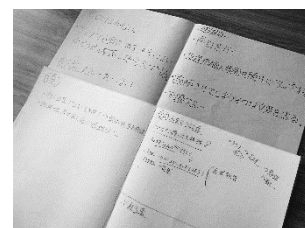
地域の行事への参加と人々とのふれあいを通して、他者へ思いやりの心をもって接する姿勢の育成を図った。JRC委員会で運営の手伝いを行った。

カ いじめ撲滅宣言

5月の生徒会総会でIBI委員を中心に全校生でいじめ撲滅の宣言を行った。日頃の生活を見直す機会を設定した。

キ IBI集会

3学期にIBI委員が中心となって運営し、1,2年生全員が参加する。ゲーム的要素のあるSSTを全体で行ったり、安心して過ごせる学校にするために今後見直すべきこと



IBI・JRC委員会の定例会

を部活動ごとにグループを作って話し合ったりと、人との関わり方を考える機会としている。

(2) 道徳科を中心とした道徳教育の充実

ア 別葉を用いた他教科との連携

別葉は印刷室へ掲示し、多くの教員が修正を加えることで、他教科との連携と年間計画の見直しができるようにしている。

イ 授業参観での道徳の授業を全学級公開

(3) ボランティア活動への参加

ア 敬老会へのボランティア

IBI・JRC 委員が中心となってボランティアを呼びかけ、受付や招待者へのもてなし、会の司会等の運営の手伝いを行った。また、吹奏楽部員は招待者に向けて演奏を披露している。

イ 福祉のつどいでのボランティア

IBI・JRC 委員が中心となってボランティアを募集し、様々な催し物の手伝いを行った。20 名ほどが毎年参加している。

ウ 生徒会を中心とした募金活動

災害時に生徒会役員が中心となって募金を呼びかけ、義援金を送ることで被災地を支援した。

エ IBI の定例会での話し合いから、1 年生の課題としてあいさつに元気がないことが挙げられた。改善策として、1 年生の IBI・JRC 委員が中心となり、学年全体であいさつ運動を行った。



敬老会ボランティア



福祉のつどい

(4) 外部講師による特別授業

ア ピアサポート研修会の実施

各学級から 2～3 名程度ピアサポート研修生を選出し、年間を通してスクールカウンセラーによる SST を中心とした研修を受けている。また、スクールカウンセラーを講師に 1, 2 年生の各学級においても他者との関わりについて考える授業を 1 時間行った。

イ いのちの教育講演会

3 年生を対象として茨城キリスト教大学の磯山あけみ先生を講師として招き異性との関わり方や性感染症の理解と予防について講演していただいた。

ウ 情報モラル教室

茨城県警少年サポートセンター水戸より講師を招き、スマートフォンやインターネットを利用する際のルールやマナー、トラブルの対処法などを実際に起こった事件事例をもとに講演をいただいた。画面の向こう側にいる相手に対する言葉の配慮の大切さなどを具体的に知ることができた。

(5) 成果

ア IBI・JRC 委員会の活動によって、生徒が相談しやすい学校の雰囲気づくりを行うことができた。

イ IBI・JRC 委員会の定例会において、生徒の視点による各学級の現状や課題について話し合い、必要に応じて教師が指導にあたることで、問題を早期に解決することができた。

ウ IBI・JRC 委員会で行ったテーマ別の話し合いでは、現状と課題、これから実践できることについて話し合った。話し合いを通して周囲を思いやる行動が増え、問題の未然防止に繋がることが期待できる。

エ JRC 委員を中心としたボランティア活動では、体験を通して地域へ貢献する気持ちと、他者への思いやりをもった接し方や態度を養うことができた。

オ 1 年生が行ったあいさつ運動では、学年全員が参加し、元気にあいさつしようとする雰囲気が醸成され、学年全体に一体感が生まれた。

カ 外部講師による講演を通して、より説得力をもって、具体的な注意点を知ることができた。

II 今後の課題

本校の特色でもある IBI の活動においては IBI・JRC 委員が中心となって人権意識の向上に関わる取組を行ってきた。しかし、各学級や部活動における細部の組織ごとの人権意識の向上や、教員自身の人権意識を見つめ直す機会を設けることが必要になると考える。また、IBI の活動では、これまでの伝統を引き継ぐ中で、前述の課題を解消する取組を加え、生徒の実態に合わせた人権教育の一層の推進を図っていきたい。